

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

ワイン造りを支えたトロッコ軌道

昭和30年代



【参考】トロッコで葡萄園を視察する様子(大正4年)



これは、現在の田宮二丁目・中央付近を撮影したものです。
写真に写るトロッコ軌道は、神谷葡萄園の葡萄畑から牛久醸造場(現・牛久シャトー)にブドウを運び、また完成したワインを牛久駅に運搬するために利用されていました。
戦後の農地改革等で葡萄園の規模が大幅に縮小し、ワインが造られなくなると、トロッコは使われなくなり、軌道も昭和40年代には姿を消しました。



「昔のうしく」の写真(とくに昭和40年代までの写真・東部地区の写真)を募集しています。

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

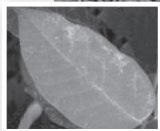
①紅葉期の樹冠:岡見町の林縁
平成24年11月17日撮影



第35回

ヤマウルシ

ウルシ科ウルシ属の高さ5〜8mの落葉小高木で、北海道〜九州に分布。牛久市では林縁などに生育しています。樹皮は灰褐色で浅く縦裂。葉は互生し、7〜15枚の小葉からなる奇数羽状複葉で、長さ25〜40cm。小葉は卵形または



②紅葉期の小葉:牛久自然観察の森
平成15年11月7日撮影

卵状広楕円形で全縁、ときに1〜2個の大きな鋸歯があり、両面に軟毛が散生。秋の紅黄葉が美しく目立ちます。樹皮や樹液に触れるとかぶれるので要注意です。雌雄異株。枝先の葉腋から円錐花序を出し、緑黄色の小花をつけます。花序は垂れ下がり、果実は径約5mmで剛毛が密生。樹皮から漆を採取するのは中国・ヒマラヤ原産の別種のウルシからで、県北の大字町は全国第2の産地で、大子漆として知られています。
※牛久の里山樹木ハンドブック52ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。
【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章:戸塚昌宏、写真:①戸塚昌宏・②渡辺泰)

文芸さろん | 霜月 |

高原から絵葉書がきた
罌雲のせて
黒葡萄ひかり束ねて一〇〇グラム
遠く見ゆ筑波の峰に秋の雲
老いた木の柿の実ひとつ残りけり
草ひばりの美声あり雅い日が居た
モクセイの香りで天下の秋を知る
車窓から見える悔しきよ
うめもどきそよ色付くときの風
年りん重ね美しくなる

木村さん

井上さん

一朵

月田 勉さん

和多田さん

空

涼

<次回募集テーマは「冬」>

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512
E kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)